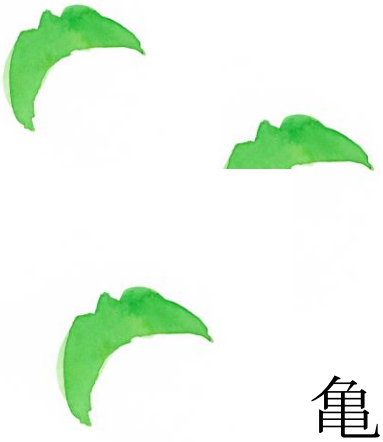
俳句集

令和五年度　第十九回

亀山市民俳句会

（応募句　一般の部）

主催　亀山市・亀山俳句会



選者　石井いさお
　　坂口　緑志
　　前田　照子

とき　令和五年十月二十一日（土）
ところ　亀山市文化会館　二階会議室

受賞俳句

《一般》

市長賞　たかぶれる夜半の雨音広島忌

市議会議長賞　乱おこしさうな雲湧く大夏野

教育長賞　朝顔やおころ蒸す度思ふ母

芸術文化協会会長賞　秋旱鍬を大きく振り上げて

秀逸　湯宿へと細る崖路の百合の花

嘘ひとつ語るも看取り林檎剥く

ソーダ水身体の芯を通りたる

暁闇の一村煽つ稲つるび

浅草に選ぶ文香小鳥来る

宿場跡古看板の女郎蜘蛛

佳作

みなで押す田舟ぐらりと早稲を刈る

流木に波の乱るる残暑かな

神鶏に手より与ふる今年米

父さんの歯形大きい西瓜かな

朝涼や牛舎に流すクラシック

応募俳句

1

白壁に空蝉残し森騒し

孫娘（まご）が来た気配を感じる夏暖簾

なぜ涙父母妻逝きし秋のせい

秀

2

湯宿へと細る崖路の百合の花

相輪の尖る大和路秋高し

十夜寺燭のさゆらぐすき間風

逸

3

嘘ひとつ語るも看取り林檎剥く

童謡の記憶はるかや赤とんぼ

心許なくて鳴き止む秋の蟬

秀

4

砂浜の思い出流す土用波

豊作は神の恵みと日々の汗

コスモスに気ままな風の子守歌

5

誰そ彼の疲れと安堵つくつくし

教会の尖塔高し秋気澄む

片笑くぼ寄せる少女や青林檎

6

今日処暑の旅の荷どかと富士の宿　西町

見なれたる男の日傘雲の峰

露天湯や湯音風音盆の月

7

切り口は半月仲直りの西瓜　天神

秋灯栞に亡父（ちち）の覚書

秋風や始発列車に飛び乗りて

8

亡き母と話足らずやほととぎす　安坂山町

新人は先生のそば文化の日

待ち合はす京の尼寺半夏生

佳作

9 みなで押す田舟ぐらりと早稲を刈る
うかと出て風にまぎるる蛇の衣かな
あほのけに呑む町角のソーダ水

10 ビンの中鈴虫動き十五六
彼岸花土手に咲き出し安堵して
台風来風に驚き眠られず

11 節くれの指で鰯を割(さ)くおばあ
相撲かアニメかチャンネルは指ずもう
半夏生今や高ねのねこまたぎ

12 蝉時雨部活の子等の声大き
ポケットのどれもふくらむ汗の玉
秋旱鍬を大きく振り上げて

芸術文化協会会長賞

13

新米を炊いた日伏せてクイズ出し

長雨や秋蒔きの種握り占め

七夕や誤字や絵文字で賑わひて

14

厨房の大将無言風死せり

炎昼（えんちゅう）のグランドにブリキのバケツ

来（こ）し方に輝きありや法師蟬

市議会議長賞

15

豆鯵（あじ）の皮剥ぎとることも夏休

涼しさや空也の口を出づるこゑ

乱おこしさうな雲湧く大夏野

教育長賞

16

帰省子のさらつと敬語使ひけり

朝顔やおころ蒸す度思ふ母

鈴虫や今日のテレビを消し静か

秀逸

17 凧揚げや追ふ子走る子足長し
ソーダ水身体の芯を通りたる
無住寺へ続く山門夏椿

18 夏夕べ白き袴の立ち姿
冷ぞう庫ある一角の期限切れ
満載の軽トラックや炎天下

19 淋しさの手のひらに寄る秋の蝶
一輪車落葉の上に吾子も乗せ
踏ん張りて見得を切る吾子秋二度目

佳作

20 夜の秋庭の雨音深かりき
流木に波の乱るる残暑かな
つくつくし風の抜け道ありさうな

21
引く波の曳きづる音や星月夜
草の根のふんばる力終戦忌

22
若者の八月終る海辺かな
鶏頭のみじかき供花の雨に燃ゆ
秋暑し部屋中を開け風のあと

23
少年の繃帯白き晩夏光
長崎の鐘蜻蛉のホバリング
遠き音は祈るに似たり秋の雲

24
風そよぐ向日葵畑駅舎裏
日本地図真つ赤に染まり夏休み
持て余す咽の痛みや夏の風邪

秀逸

25 朝の風蟬のむくろを拾ひあぐ
飼犬の小さき墓標草の花
雨雲の抜けきつてゆく盆の月

秀逸

26 暁闇の一村煽つ稲つるび
処暑の雨老の暮しの戻りつつ
震災忌は妣百歳の誕生日

佳作

27 神鶏に手より与ふる今年米
巻き上げて風の親しき秋簾
秋耕のきり無き小石除きけり

秀逸

28 恋文を書く紅茶に檸檬一滴を
白粥にやすめる胃の腑涼新た
浅草に選ぶ文香小鳥来る

市長賞

29 たかぶれる夜半の雨音広島忌
子らのコーラスみづうみの夏空へ
ひと粒に祈りをこめて蒔く大根

30 雄叫びのプレス大暑の載積場
空の青深めていよよ百日紅
懐かしき句友が夢に天の川

31 クワガタを連れて一家の里帰り
店番は猫と朝顔なんでも屋
宿場跡古看板の女郎蜘蛛

秀逸

32 薬待つ夜のしじまの熱帯魚
芋虫の自在に転ぶ童話館
父さんの歯形大きい西瓜かな

佳作

佳作

33

畔の草すつきりとして今朝の秋

鈴虫や声のころがる甕の中

手術後のリハビリの日々蝗跳ぶ

34

朝涼や牛舎に流すクラシック

ポケットに飴玉二つあつぱつぱ

向日葵や老いの遊びの痩せ畑

35

亡き祖母の思い出の味鰻食ぶ

かなかなや君と手繋ぎ帰る道

夕焼や波打ち際の空き瓶よ